

航部發 第三九四號

12.11.10 受

12.11.5 受

12.11.6 受

改正 航空統計送付之件

大正拾貳年九月廿九日

陸軍航空部

海軍省 而中

陸軍航空部 印

軍務局 本年上半期中、於ケル陸軍航空統計別紙、通為御参考及送付候也

教育局

第三課

第二部

第二課

總務部

本年三札子此種統計、内次調査セラレニシテ、望ムベキ

12.10.6

1317

大正十二年上半期部隊別航空統計

陸軍航空部



氣球隊	計	薩哈連州派遣軍航空班	熱田在勤検査官	所澤在勤検査官	同 第六大隊	同 第五大隊	同 第四大隊	同 第三大隊	同 第二大隊	飛行第一大隊	航空學校					部隊別		飛行	事故						
											明野分校	下志津分校	教導中隊	研究部	教育部	回数	時間								
一二〇	二〇、一二八	三三	八九	一九九	六一二	四七〇	六八四	八二四	九三五	七〇八	九〇〇	九八〇	二六〇	四七七	一三〇〇七	一三〇〇七	一三〇〇七	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
一八二	四六二・八一	一六・一五	四四三〇	六七・三三	二二二・二二	一七七〇三	三六三・二六	二五七・三五	三七八・一四	二七四〇二	二三八〇四	四二二〇九	一一四・五五	一一五・〇二	一九二八・〇二	一九二八・〇二	一九二八・〇二	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
二三四	二九、一六四	三七	一一四	五二〇	八六九	六九四	九四〇	八四三	一四二・七	七一五	一二七三	一五九〇	三三〇	四五六	一九五六六	一九五六六	一九五六六	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
小破	二				一	一	二	一	三	一	二	一	一	一	一	一	一	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	三																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	一																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	二																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	一																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	一																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損
	一																	延人員	人員	傷	地上	機体	破損	發動機	破損





第二

大正十二年上半期中於各任務別傷害調査 陸軍航空部					任務別		區別	
					傷		害	
地上勤務者	同乗者	操縦者		區分	件	數		
負傷	重傷	重傷	殉職				一	一
							一	二



大正十一年上半期  
大正十二年上半期

### 飛行事故率比較表

陸軍航空部

種別	年		度		比較率
	十一年上半期		十二年上半期		
	人員	時間	人員	時間	
飛行一萬回ニ對スル死傷人員	人員	時間	人員	時間	比較率
	1.30	1.95	1.49	0.96	
飛行一萬時間ニ對スル死傷人員	人員	時間	人員	時間	比較率
	8.49	5.67	4.32	4.17	
搭乗延人員一萬人ニ對スル死傷人員	人員	時間	人員	時間	比較率
	1.30	0.86	0.69	0.61	
一人ノ死傷ヲ出シタル飛行回数	人員	時間	人員	時間	比較率
	5.13	7.70	10.06	4.92	
一人ノ死傷ヲ出シタル飛行時間	人員	時間	人員	時間	比較率
	1.77	1.78	2.31	1.36	
一人ノ死傷ヲ出シタル搭乗延人員	人員	時間	人員	時間	比較率
	7.70	7.9	14.58	6.87	
飛行一萬回ニ對スル事故發生回数	機體	發動機	機體	發動機	比較率
	2.98	2.59	2.48	5.08	
飛行一萬時間ニ對スル事故發生回数	機體	發動機	機體	發動機	比較率
	1.30	1.33	1.08	2.24	
氣球隊ノ分ニ示サス	機體	發動機	機體	發動機	比較率
	5.37	5.37	5.83	4.59	

詳

大正十二年上半期機体事故原因大別表																					
事故區分	件數	操縱、過り	四 五	天候、因ル操縱、過り	三	發動機ト操縱	二	機体ト發動機	一	發動機ノ故障	八	地上積雪障害	一	軍紀	二	取扱不注意	二	小破ニシテ原因不明ニ屬スルモノ	六	計	九 二

陸軍  
本部

大正十二年上半期發動機事故原因大別表																	
事故區分	件數	操縱、過り	一 二	天候	一	發動機ト操縱	四	機体ト發動機	一	發動機ノ故障	三 二	小破ニシテ原因不明ニ屬スルモノ	三	備考 機体ノ故障ニ伴フ發生シタル事故ヲ含ム	五 三	計	五 三









大正十二年部隊別發動機事故原因大別表

陸軍航空部

備考	計	同		同		同		同		同		飛行第一大隊		校		學		空		航		部隊別	區	分	事故計	事	故	大	別	件	譯	數
		薩摩	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同											
機体ノ故障ニ伴ヒテ發生シタル事故ノ含ム	53	1	1	1	3	2	6	5	19	3	3	1	8																			
		發	不	發	操	機	發	發	發	操	操	發	發	操	不	發	操	發	不	天	機	發	操	事	故	大	別	件	譯	數		
		動	明	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	機	
		一	一	一	一	一	二	三	一	二	五	一	四	五	一	二	一	二	一	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	一	三	















<p>左 照 翠 署</p>	<p>左 中 枝 園 鏡</p>	<p>左 ヲコビノス北上様</p>	<p>海軍用シム葉セルソシシ強密様</p>	<p>怯ヲ携ハ来者左ノ事取ヲ聞キタキニ旨申上候リ</p>	<p>支那領事署 船匠院 秘書 雜務 廣公使館 照會</p>	<p>第一課 第二課</p>	<p>第二部 第一部</p>	<p>第二課長</p>	<p>第一課</p>
----------------	------------------	-------------------	-----------------------	------------------------------	--------------------------------	----------------	----------------	-------------	------------

名籍及製造所  
及購買ノ能否

12.11.20 受

12.11.15 受

12.11.15 受

12.11.10 受接

1334

為常記

四遊を将来に就て新造せしむる各機戰門機ノ名稱

及製造所及購置ノ能否

此等ノ本月十日迄に北京に歸り復年終後

日ノ上適多不心モノヲ購置せん年終ヲ以テシ

陸軍用飛行機ノ陸軍部に就て海軍用飛行機

航空署に送テ取扱ヒ居レリトス

右ニ對シたノ如ク回答可然ト認ム

一、我海軍用飛行機ハセルハソノソフビーストニモアラス、我

海軍獨特ノモノナリ

支那航空ニ就帝國飛行士養成所ヲ設ケリトシ機師セシムル一編第ヤト云ハ

本人の面會  
 二名の語集  
 法よりト  
 軍中機、候  
 及向の百機  
 會社  
 行スントス  
 行スントス

軍中機、候  
 能  
 可  
 能

二、我海軍用飛行機機関、左照準器、真角機、 主トシテ、我海軍工廠、其部、民間飛行機會社、 製造シコトナリ。	三、海軍関係、民間飛行機會社ノ至ルモノ、左ノ如シ (一)三菱内燃器會社 (名古屋) 艦上機、イコバ、發動機 (二)淺沼時計電機會社 (名古屋) K5 飛行機 (三)中島飛行機會社 (大田) 水上練習機 (四)川崎造船所 (神戸) 川西飛行機製造所 (神戸)	四、民間水上機ヲ製造スルモノ、三坂、本會社、兵庫、相 當適者ナルモノヲ得シ。
---	--	---

川崎造船所、川西飛行機製造所、兵庫、相  
 當適者ナルモノヲ得シ。

承啓者茲有兩國飛鳥濱君  
前來貴國調查水上飛行機  
事項用特紹介即希  
派員接見一談為荷收候  
時社  
十一月六日 中華民國公使館啓  
漁軍省秘書官處

羅亮潢

府下十駄ヶ谷  
陸軍大学  
楊蔭  
貴州

二人乗

ガムソシ偵察機

ソシ六水面機

翼卡基機

空中机関機

照準機

高射砲

近距離各種

種類  
戦術機

海軍

1338  
1339

1025

省

航空署 長 潘紀云

陸軍部

航空隊 秘書

貴州

羅亮燾

1338

1339

支那より飛行機、照會ニ就テ

一 仲外者 神戸市三宮町一ノ八 株式会社村田梅谷商店

一 常務者 支那福建省政府

一 希望果 カークス式水上飛行機 重量乃五五〇基 (即人乗ノモノ)

發動機 (百馬力乃至二百五十馬力ノモノ)ヲ含ム

在庫品アリバ其ヲ希望ス 其ノ重量ハ輕可航ノ機

註 前記村田梅谷商店ハ福建省政府より委託ノ外ニサレムラノ式陸上機ノ

照會ヲ受ケ目下川崎造船所ト交渉中ナル由 福建省政府ハ此機

未だ多ク取回ル飛行機ヲ購入セシ事アリモ今回ハ日本より購入希望

今ハ申込シタルモノナリ由 同商店員ノ談ナリ

愛知時計電機株式会社

常務取締役 青木鎌太郎

名古屋市中區千代字柳力  
電話南一區二二三番 西一七三番  
東區川原町 電話南一區二二三番

大正 年 月 日

愛知時計電機株式会社

1349



大正 年 月 日

愛知時計電機株式会社

支那ヨリ飛行機ノ照會ニ就テ

一 仲々者 神戸市三宮町一ノ八 株式会社村田梅谷商店

一 常務者 支那福建省政府

一 希望者 カークス式水上飛行機 重量乃五噸基(五人乗可)

發動機(百馬力乃至二百五十馬力)ヲ含む

在庫品アリバ甚シク希望ス 若シ能クシバ製作可能ノ時

註 前記村田梅谷商店ハ福建省政府ヨリ前記ノ外ニサムラノ式陸上機ノ

照會ヲ受ケ目下川崎造船所ト交渉中ナル由 猶福建省ハ吃米

米必ヨリ救回飛行機ヲ購入セシ事アリモ今回ハ日本ヨリ購入希望

ヲ前記村田梅谷商店ハ申込シタリト申由 同商店員ノ談ナリ

1340  
1341

霞浦海軍航空隊 第四一號

大正十三年十月七日

霞浦海軍航空隊司令



海軍省艦政本部長殿  
海軍省軍需局長殿  
海軍省教養局長殿

器材供給ニ関スル件

口式百十馬力發動機定數八練習飛行機班ニ隊對シ  
常用補用合計四基ナル方同班ノ飛行作業ニ常ニ極

繁忙ニシテ自然整備班ニ於テ整備ヲ要スル作業モ亦頗ル  
繁忙ヲ極メ常ニ充分ノ補用品アルニ非サル到底飛行班要

一、修理及ノ派遣ノ  
多クシテ修理スル後  
ノ運送等々下  
ニ推察  
二、補助機後出取  
ノ場加多下  
三、修理  
四、修理  
五、修理  
六、修理  
七、修理  
八、修理  
九、修理  
十、修理

1342

12.15.12

求ニ順應シ得サル次第ニ有之此ノ目的ヲ貫徹スル爲メ曩ニ  
 練習飛行班用發動機補用數ハ常用數ノ三倍ヲ必要  
 トスル旨提案致置候得共遂ニ其ノ實現ヲ見ル至ラス前記  
 ノ定數ヲ以テ極力今日迄飛行作業ヲ遂行シ來リ候處同  
 班ノ作業ノ性質上發動機ノ使用時數ニ其ノ毀損率モ他  
 ニ比シ著シク多數ニシテ從ツテ解放檢查調整ノ都度不良部  
 對スル修補並ニ補用部分品ノ換裝モ頗ル多數ナリ一般ノ  
 衰朽モ亦著ルシク今日四八基ノ定數ノ内修理ヲ要スルモノ四基  
 集合環摩耗不良ノ爲メ豫備品換裝ヲ要スルモノ六基アルモ  
 該環ハ講習部以來既ニ船着品ノ全部ヲ換裝消耗シ盡シ結  
 局差當リノ修理ヲ要スルモノ十基ニ達スル現狀ニ候モ工廠側

トシテ八遺般ノ震災ニ依リ當分修理ヲ施行トシテ修理  
請求書類ハ其儘返還セラルル有様ニ有之然ルニ當隊ニ於テ  
右集合環修理ニ要スル適當ナル材料ナキ爲メ修理不可  
能ニシテ結局修理ヲ要スル發動機ハ検査官ノ検査ヲ終テ  
修理不調ノモノトナレ罷納手續ヲ了シテ新品ノ受込ヲナスノ必  
要アルモ之又本件ニ関シ曩ニ解決方照會致置候通りノ次  
第ニテ末々検査官ノ出張検査實現ヲ見ルニ到ラス依テ  
兵器經理規程第十八條ニ依リ引替供給ノ法ニ依リ新  
品供給ヲ受ケント欲スルモ之レ亦過日移動格納庫ノ引  
替供給ヲ請求セルニ對シ検査官ノ検査ヲ終ル上ニ非ヤレ供  
給未來サル旨ノ回答ニ接シ候ニ就テ發動機ニ無論同様

事在ヘク結局當分ハ新品ノ供給ヲ受ルル見込立タス止ムヲ  
得ス三十八基ノ發動機ヲ以テ毎日平均十五台ノ練習飛  
行機ヲ支障ナク飛行セシメ得ル様整備ノ遣リ繰リヲナシ加  
之ルニテアブ口機上作業機用トシテ八基ノ發動機ヲ整備  
セサル可ラサル現状ニシテ而カモ現有發動機ハ既ニ長期間  
使用サルニシテ以テ一般ニ衰朽シ開放検査ヲ要スル事故モ比  
較的多ク整備作業到底所要ノ飛行作業ニ順應シ  
得サル狀況ニ陥リ結局練習飛行ノ教育上ハ大蹉跌ヲ生スル  
ニ至ルニテハ實ニ目撃ノ尚ニ迫レル問題ニ有之候ニ就テハ此際毀  
損品ノ検査補修並ニ新品供給實現ノ手續ニ関シ至急  
可然御配慮相煩度

右照會ス

追テ補修用金屬材料ノ内熱處理ヲ必要トスル大形ノモノ  
並ニ加工非常ニ困難ナルモノヲ除キテハ適當ナル材料サハ  
アレハ修理作業ハ隊内工業力ニ依リテ充分處理ニ得  
ハシ從來工廠側ニ於テモ補修材料ノ供給ニ就テハ多大ノ  
便宜ヲ與ヘラレシアル所ナルモ檢查事務意ノ如ク進捗セザ  
ルヲ以テ自然材料供給取計上遺憾ノ甚クカラス候尚  
ホ又機上作業用トレテアフロ機ハ基ヲ當時使用致届候  
處之レニ要スル口式二〇馬力發動機ハ定數設定ナキタメ  
練習飛行機用ノ内ヨリ融通致シ届候次第ニ有之斯テハ  
兩者ノ教育作業ヲ円滑ニ實施スルハ到底不可能ノ

次第ニ就テ機業上作業機用トレテ口式一〇馬力發動  
機常用八補用八合計十六基ヲ當分定數外トレテ  
供給ノコトニ取計テ御配慮相煩度

終り

1347

三三三

教育局長

建議

局長

局長

下會長

工政會ハ帝都復興計劃ニ関シ各部門ノ學識經驗ニ富メル

ノ結果帝都復興院ガ尤ノ諸莫ニ付速ニ適當ナル方針ヲ確立シ之ヲ

實行セラレン事ヲ希望シ茲ニ及建議候也

大正十二年十月二十三日

第一課  
第二課

工政會理事長  
工學博士子爵

大河内正敏

建議局

局長

帝都復興院總裁子爵後藤新平閣下

軍務局受

12.11.14

1348

12.11.19 接受



記

復興ノ大本

- 一、速ニ大綱ヲ決定シテ復興ノ事業ヲ促進スベシ
- 二、他日新設又ハ改造セントスル場合ニ於テ甚シク施工上ノ困難アル  
モハハ此際此レヲ断行スベシ

帝都復興計劃區域

帝都ノ復興計劃區域ニ就テハ從來ノ東京、横濱兩都市計劃區域ヲ併セ考慮スル事

地域ノ設定

- 一、住居地域、商業地域、工業地域、特別地区ノ設定ヲ断行スベキ事
- 二、前項ノ限定ニ反スル現在建築物ニ就テハ相当猶豫期間内ニ漸

次撤退セシムル事

三、本町、深川両区ハ速カニ地上ゲヲ決行シ工業地域トシテ適當ナル施設ヲ行フ事

### 土地区劃整理

一、燒跡ノ土地区劃整理ヲ断行スル事

二、町名ハ地区ニヨラズ町筋ニヨル事

三、番地ハ之ヲ番戶ニ改メ町筋ノ両側ヲ奇偶ニ分ケ各街区毎ニ一番ヲ

一番、二百一番ノ如ク一番ヨリ始ムル事

### 市街地建築物法

一、京橋区、日本橋区、神田区ノ大部分及其他燒失地ノ主要部分ヲ

甲種防火地区ト指定シ其地区内ノ建物ハ耐震耐火構造トス

シムル事

二、前項以外ノ市内残部及近接町村ノ繁栄地ハ漸次甲種防火地区ニ編入セシムル事

三、木造建築ハ三階建ニ制限スル事

四、日本瓦其他重量大ナル屋根葺材料ヲ使用スル木造建築ニ對シテハ殊ニ耐震上安全ナル構造ヲ有セシメ且屋根葺材料ノ落下ヲ防止スル方法ヲ採ラシムル事

五、木造家屋ニ使用スル木材、建具等ハ可成耐火剤ヲ施ス事ヲ奨励スル事

六、市街地建築物法ハ耐震的見地ヨリ適當ニ改正スルキ事

七、建物ノ高サハ主トシテ災害防止ノ見地ヨリ現行市街地建築物法ノ最高制限ヲ逐下スト共ニ土地ノ經濟的利用ノシテ最低

制限ヲ規定スル事

ハ、特ニ指定セル地区ニ於テハ道路ニ面スル建物ノ高さヲ一定ニスル事  
九、主要道路ニ面スル建物ノ間口ハ土地ノ経済的利用ト美觀ノ上ヨリ

最小制限ヲ規定スル事

十、分界壁ハ相隣者共通壁トシテ建築スル事ニ関シ相当ノ規定

ヲ設クル事

般建築ノ促進並ニ改善

一、燒失地域内ニ於テハ一街区毎ニ土地ノ所有者、借地権者ヨリテ建

築組合ヲ組織セシムル等共同シテ其街区ノ建築ヲ完成セシムル

方策ヲ講ゼシムル事

二、耐震耐火建築ヲナスモノニ對シテハ或ル期間ヲ限り相当ノ補助

ヲナス事

- 三、一般町家等ノ設計各種ヲ作製シ建圖、間取圖、外詳細設計圖、仕様書、仕譯書等ヲ印刷交付スル事
- 四、建築ノ種類ニ應ジ細部ノ規範ヲ制定シ規格ヲ統一スル事
- 五、窓小戸其他一般ニ應用シ得ルモノハ出来合品使用ヲ獎勵シ其ノ製作業ヲ助成スル事
- 六、帝都郡整美委員會ヲ創設スル事
- 七、建築材料標本陳列所ヲ設クル事
- 八、建築材料試験所ヲ設クル事
- 九、集合住宅及割代賃工場ノ建築ヲ助成スル事
- 十、暖房、温水供給設備ノ集中ヲ獎勵スル事
- 十一、在土地建物の整理復興

一、防空防禦ノ方法ヲ考慮スル事

一、東京市内國有土地建物ノ整理ハ速カニ之ヲ実行シ土地ハ出來得ル限リ之ヲ都市計劃事業ノ用ニ借スル事

一、災害善後復興

一、罹災工場復興資金トシテ金一億円ヲ限度トシ左ノ方法ニヨリ政府援助ノ下ニ融通ヲ受ス事

A) 特種銀行ノ下ニ六厘以下ノ低利ヲ以テ不動産又ハ工場對團ニ對シテ時價ノ八割以上ノ金額ヲ融通セシムル事

(B) 工業復興ノ目的トスル特殊ノ信用組合ヲ組織シタルニ對シテ政府ハ長期低利ノ資金融通ヲ圖ル事

本項ハ融通ヲ得ルモノハ罹災工場ニシテ左ノ資格ハ一以上ニ該當スルヲタズ

(イ) 國家又ハ帝都復興ノタメ必須ニシテ有望ナルモノ

(ロ) 從來事業經營ニ付信用アルモノ

(ハ) 將來發達セシムベキ必要アル特殊工業ニシテ特殊ノ技術經營

ヲ指スルモノ

(ニ) 合同若クハ整理ニヨリ將來發達ノ見込アリト認め得ベキモノ

二、前項ノ目的ヲ達スルタメニ特ニ權威アル鑑査會ヲ設置スル事

三、政府ハ罹災地ニ於テ工場ノ建設、貸付、年賦賣渡ヲ目的トスル工場

復興建設會社ノ創立ニ對シ特別ノ保護ヲ與フル事

四、罹災地工場ニ關スル租稅ハ三ヶ年間免除又ハ減額スル事

五、官公署、工場及従業員救濟ノ多クな手段ヲ採ル事

- (イ) 此際工事及需要品注文ヲ速カニナスベキ事
- (ロ) 罹災地ノ工事及需要品ハナルベク罹災地ノ工業所ニ注文スル事
- (ハ) 此際ノ注文ニ對シテハ出来高掛ヒラシ又ハ一部ノ前渡金ヲナス事
- (ニ) 既注文品若クハ締結中ノ工事ハ可成取消ヲナサザル事

1356



建議

其二

工政會帝都復興委員會ハ過般復興  
大本以下七項ニ付建議セル後引續キ委員  
會ヲ重テ審議セル結果道路、橋梁、河川、港  
灣ニ付先、如ク決議致候ニ就テハ当局ニ於テ  
此等各項ニ付速ニ具體案ヲ作製シテ安實行  
セラレシ事ヲ希望シ茲ニ及建議候也

大正十二年十月二十七日

帝都復興院總裁子爵後藤新平閣下

工政會理事長工學博士子爵大河内正敏

1358

# 道路

## 記

一 京浜間ニ二條以上ノ大道路ヲ設クル事

二 主要幹線ノ幅員ハ約五十メートル、幹線道路ノ幅員ハ

約三十五メートルトスル事

三 市内道路ノ舗装ヲ速成スル事

四 地下埋設物ハ整理ノ上止ムヲ得ザルモノノ外之ヲ歩道下ニ

收容スル事

五 道路ノ交叉莫及橋詰ニ充分ナル餘地ヲ設クル事

## 橋梁

一 市内橋梁ノ構成材料ハ不燃質トシ其幅員ハ特ニ長

キ橋梁ヲ除クノ外道路幅員上致セシムル事

ニ市内橋梁ノ橋下ニ於テ空ノ空間ハ水運上有効ナル

ト爲スル爲ニ最小限度ヲ定メ隅田川ニ関シテ此

点ヲ特ニ考慮スルコト

三新大橋下流ニ於ケル隅田川本流並ニ派川ノ架橋ハ

可動橋トスル事

河川

一東京市内ニ於ケル水運利用貨物ノ實數ハ本市米

入貨物ノ約七割ニ相当シ且フ船ノ形俵日増大スル傾向アル

ヲ以テ交通ノ整理、運賃ノ節約上河川運河ノ新鑿、改

築、整理ヲナスベキコト

二商工業地域ニ於ケル主要運河ノ幅員ハ五十五メートル以上

其深度ハ基準面以下ニメートル以上トナス事。

三從來ノ東京ニ於ケル河川、運河、陸揚設備ノ不完  
全ト復興物資ノ輻輳等ニ鑑ミ充分ナル設備ヲ有ス  
ル船溜及ヒ陸揚場ヲ多數ニ設クル事

四河川運河ノ配置ハ本所、深川ニアリテハ現在ノ諸川  
ヲ基トシテ東西約六川、南北約三川トシ京橋、日本  
橋、浅草等ニアリテモ現在ノ諸川ヲ基トシテ適  
宜新鑿、改築、整理ヲナス事。

## 港灣

一東京港ト横浜港トハ豫メ其ノ地形、地勢並ニ商

工業ノ狀勢カニ鑑ミ修築方針ヲ確立スル事

二帝都出入物資ノ横浜港ヲ經由スルハ毎屯二圓以上ノ運賃ノ差額アリ且ツ種々ノ不便不利ヲ伴ナ  
ヲ以テ復興物資ノ輻湊スル此ノ機会ニ於テ  
東京港ノ修築ヲ速成スル事

三東京港ノ修築ハ差当リ一日屯万噸ノ荷役能力  
ヲ標準トシ之ヲ二ヶ年以内ニ速成セシムル事

建議 卅三

工政會帝都復興委員會ハ曩キニ復興ノ大本以下  
七項及ビ道路以下五項ニ付兩回ニ亘リ審議ノ結果  
ヲ建議致シ候處今回更ニ左ノ諸項ニ付帝都復興  
興院カ適當ナル計劃ヲ樹テ時機ヲ失セサル様  
之ヲ實行セラルル事ヲ急務ト認メ茲ニ第三回  
ノ建議ヲ提出ス及ビ候也

大正十二年十一月三日

工政會理事長 大河内正敏  
工学博士 子爵

帝都復興院總裁子爵 後藤新平閣下

鐵道及軌道記

一、東京ヲ中心トスル鐵道設備改良ノ方針ヲ確立シ

此際速カニ工事ニ着手スル事

二、鐵道設備ハ東京港修築計劃ト充分聯絡アラシ

ムル事

三、東京市内貨物駅ヲ拡張又ハ増設シ物資ノ集散ヲ敏

活ナラシムル設備ヲナス事

四、砂利及ビ砂ハ復興用材料中主要ナルモノナルヲ以テ之

カ輸送ニ対シ線路ノ増設ヲ行フト共ニ市内ニ此等ノ取



扱設備ヲ有スル貨物駅ヲ新設スル事

五、山手一帯ノ物資集散駅不足ナルヲ以テ此際適當ナル地ヲ選ビ貨物駅ヲ新設スル事

六、貨物駅ノ附近ニ完全ナル貯藏所、倉庫、運送店及ヒ小運送機關ヲ設置スル事

七、主要ナル市場及ビ工場ニ鉄道引込線ヲ設クル事

八、東海道及東北線旅客列車ハ市ノ中心地ニ於テ乗降之得ハニ充分ナル設備ヲナス事

九、鉄道省計劃ニ係ル神田、上野、西国、萬世橋間ノ聯絡及ヒ山手線改良工事ヲ速成セシムル事

十、都心ヨリ放射狀ニ既置セラルルハキ高速度鉄道網ヲ確立之速カニ之カ経費方針ヲ決定スル事

十一、高速度鉄道網ニ鉄道省線路ト調和ヲ保フ之ノ力

實施ノ順序ハ先ヨ山手沿線中最モ發達セル地方ト  
都心トヲ聯絡スルモノヨリ着手スル事

十二、路面電車ハ高速度鉄道及七道路ノ完成ニ伴ヒ之

ニ適應スル方針ヲ樹ツル事

十三、高速度鉄道ノ軌間ハ一四三・五ミリメートルトシ市内及近

近郊電車軌間ヲ三レニ統一スル方針ヲ樹ツル事

## 公園

一、従来公園ハ出来得ル限リコレヲ改善、拡張シ更ニ適

當ナル場所ニ新公園ヲ設ケ、近郊數ヶ所ニ自然公園

ヲ設ケル事

二、河海ノ沿岸適當ナル箇所ニ水辺公園ヲ設ケル事

三、住民稠密ナル場所ニ主トシテ児童保健ノ爲メ小公園  
ヲ増設スル事

四、公園ノ地勢環境ニ依リ夫々特色ヲ有セシムル事

五、公園ノ周圍ニ道路若クハ河川ヲ以テ区劃スル事

六、公園相互間ニ幹線道路ニ準スル聯絡道路ヲ設ケ之  
ニ適當ナル美装的設備ヲ爲ス事

#### 四、罹災工業復興ノ續

一、復興材料及ヒ需用品ニシテ特ニ急ヲ要スルモノ及ヒ特殊  
ノ事由アルモノ以外ハ四地製品ノ使用ヲ奨励シ罹災地  
ニ於テ生産之得ヘキモノハ可成之ヲ使用セシメ其工業ヲ  
助成スル事

二、工業製産品及ヒ其材料燃料等ニ対シ相當期間物

資供給令ノ適用範圍ヲ拡張之ヲ復興物資ノ供給價格調節等ヲ審ル事

三、復興事業ニ便スルヲ速ニ臨時爲扱及七倉庫ヲ設ケ必要ニ應シテ之ニ加工場ヲ附屬セシメ以テ物資分類加工及七配給ノ便ヲ計ル事

四、速カニ健康保衛法ヲ実施スル事